

県央地域の現状（まとめと論点）

基本的事項	<p><人口推計>（資料7の5頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年84.4万人から2025年は82.5万人（▲1.9万人、▲2.3%）、2040年は74.9万人（▲9.5万人、▲11.3%）。 ・75歳以上の人口は、2015年と比較して2025年は1.63倍、2040年は1.67倍。
	<p><患者推計>（資料7の5頁、6頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年と比較して2025年の患者数は1.25倍。2040年は1.38倍。ピークは2035年。 ・65歳未満の患者は減少。 ・疾患別に見ると、循環器系疾患、呼吸器系疾患等の増加率が高い。
	<p><病院配置状況等>（資料7の13頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部に多い。MDC別の疾患は概ね網羅している。
	<p><2025年の必要病床数の状況>（資料7の10頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度の病床機能報告（休棟中等27床を除く。）を2025年の必要病床数推計と比べると、急性期が過剰で、高度急性期、慢性期及び回復期の病床が不足している状況は続いている。
	<p><入院基本料 7:1、10:1>（資料7の15、19頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は79.73%（県内5位）。流出超過。 ・レセプト出現比は77.6%。
入院基本料	<p><地域包括ケア病棟入院基本料>（資料7の16、19頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は88.96%（県内4位）。やや流入超過。 ・レセプト出現比は62.2%。
	<p><回復期リハビリテーション病棟入院基本料>（資料7の17、19頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は83.71%（県内1位）。流入超過。 ・レセプト出現比は116.5%。
	<p><療養病棟入院基本料>（資料7の18、19頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は57.86%（県内7位）。相模原に22.10%流出。 ・レセプト出現比は61.2%。

疾患別の 地域特性	<p><がん>（資料7の8頁、21～30頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年患者数は全体的に増加するが、肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、すい臓がん、前立腺がんの増加率が高い。 ・自己完結率（入院）は、胃がん及び大腸がんが約67%、肺がん、肝がん及び乳がんは約54～63%、化学療法は約45%、放射線治療は約22%で、全体的に流出超過。流出先は相模原、湘南西部が多い。
	<p><急性心筋梗塞>（資料7の7頁、32、33頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年患者数は2015年と比較して多くはないが1.22倍になる。 ・自己完結率（入院）は79.20%（県内6位）。やや流出超過。 ・急性心筋梗塞、虚血性心疾患及び狭心症に対する心臓血管手術は全国平均を上回っている。
	<p><脳卒中>（資料7の7頁、35～38頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞の1日当たり入院患者数は約1.5倍（2015年514人、2025年759人、+245人）。 ・くも膜下出血の自己完結率（入院）は60.06%。湘南西部に13.52%、相模原に12.74%流出。 ・脳出血の自己完結率（入院）は72.16%。流出入は拮抗しているが、相模原に10.64%流出。
救急医療	<p><自己完結等>（資料7の43～44頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急患者（入院）の自己完結率は77.54%。湘南東部に7.03%、相模原に6.53%流出。 ・夜間休日救急搬送（入院、外来）のレセプト出現比は全国平均を上回っているが、救急搬送（入院）のレセプト出現比は少ない。 ・県央二次医療圏における三次救急医療機関として海老名総合病院が指定され、平成29年4月1日から同病院に救命救急センターが設置された。
在宅医療等	<p><医療資源等>（資料7の47、48頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問薬剤指導、施設支援、訪問診療（同一建物）、病院従事者による退院前患者宅訪問指導等は、レセプト出現比が全国平均を大きく上回っている。 ・入院機関とケアマネージャーとの連携のレセプト出現比は低い（36.8%）。
外国人住民 の状況	<p><外国人住民の状況>（資料7の50頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民が多く、県全体及び全国の数値を上回っている ・全国1.96%、神奈川県2.16%、県央構想区域2.82%、厚木市3.00%、大和市2.68%、海老名市1.81%、座間市2.08%、綾瀬市3.92%、愛川町6.07%、清川村0.70%

課題・論点

1 将来において不足する病床機能の分化及び連携体制の構築について

- ・2017年の病床機能報告において、急性期(60%)が多く、回復期(17%)が少なく報告されている。2023年見込みでは急性期53%、回復期21%となっているが、急性期から回復期の連携等、今後役割分担をどう考えるのか。
- ・当面は救急患者が増加傾向にあること、急性期病床から回復期病床等への転換が進むこと等を踏まえ、現在の救急医療体制を継続していくのか、将来を見据えて受入れ体制の見直しを検討するのか。

2 地域包括ケアシステムの構築に向けた在宅医療の充実について

- ・在宅医療の必要量を踏まえ、医療と介護の連携を推進するための取組みをどう考えるのか。
- ・介護施設利用者が救急入院後に退院する場合に引き取り先がなく、困るケースが今後増える可能性があるが、どのような対応が望ましいのか。

3 外国人県民の対応について

- ・県央構想区域は、愛川町等、外国人住民が全国平均や県平均を上回っている市町村があるが、今後地域としてどのような取組みが必要となるのか。